

広島県三次市立三和小学校（曾利晋三校長、児童146人）は、パナソニック教育財団の特別研究指定校（本年度から2年間助成）としてICTを活用し、国語科・算数科の授業改善を通して「論理的に考え表現する力を育成する授業の創造」という研究課題に挑んでいる。

研究代表者の愛甲昌弘教諭はスタートに当たり、課題克服のための柱として、まず、授業の改善を挙げた。具体的には、算数科で数学的な考え

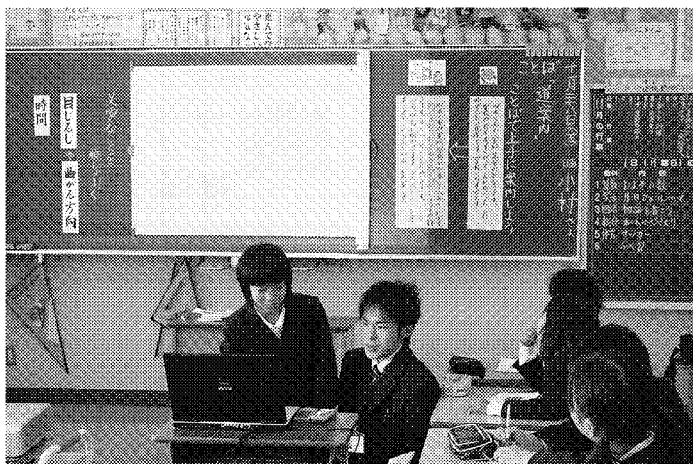
## 広島県三次市立三和小

方を伸ばすこと、国語科では説明的文章への理解力を高め、確かな表現力を身に付けさせることを内容とした。同校では、これらの課題解決を支える道具としてICTを位置付けることで、「論理的に考え表現する力」を育もうとしている。

同校では昨年度、初めてパナソニック教育財団の1年間の実践研究助成を受け、電子情報ボード・プロジェクトを1台ずつ購入し、授業改善に取り組んだ。

本年度、財団の特別研究指定校となり、2年間の助成を新たに受けた。1年目の今年は全ク

全クラスでICTを効果的に活用していた



ことが重要なのであって、子どもたちは、考えること自体を楽しんでいるように見受けられた」

愛甲教諭は、特別研究指定校としてスタートした5月と比較すると、校内研修を重ねたことで、研究課題に対する共通理解が生まれたとの感触を得たという。

木原教授は「受け身ではなく、主体的に考えて授業づくりに取り組む環境ができてきた」。同校の研究活動について、研究会以降の授業実践などを研究紀要の増補版としてまとめていることを評価した。

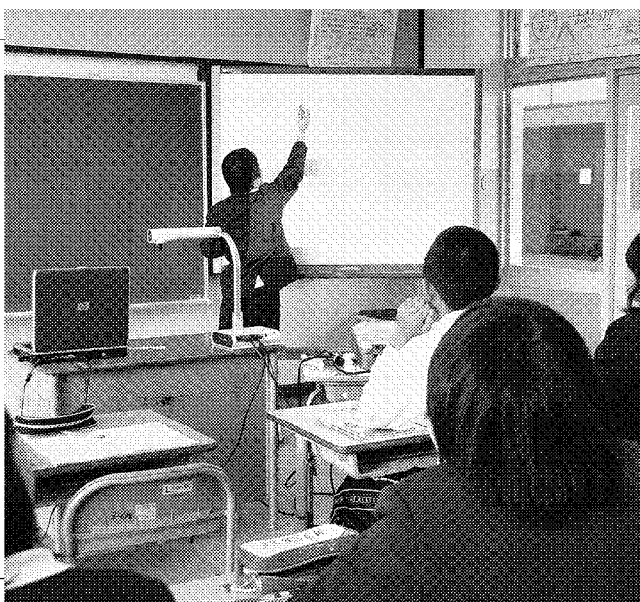
「多くの学校では、公開研で区切りを付けてしまう傾向にある」

同校には、研究活動をPDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルに乗せながら継続・発展させるモデルをぜひ確立してほしいと示唆した。

◇この連載は、(財)パナソニック教育財団（URL＝<http://www.w.pef.or.jp>）と助成先の協力により実施しています。

## 特別研究指定校編

③



6年生の算数科「割合を使って」の授業の様子

## ICT駆使し「思考」楽しむ

### 国語・算数「論理的に考え表現する力を育成する授業」に挑み

ラスにプロジェクトと実物投影機を購入し、教員の授業活用を促進し、授業研究を活性化させる環境を整えた。

11月下旬、広島県小学校視聴覚教育研究大会で同校のICTを活用した授業が公開された。

6年生の算数科「割合を使って」の授業。

パソコンを使って、児童自身が面積図を操作しながら、問題の解き方を考えた。意見交流の場面では、教員や児童が電子情報ボードを活用しな

から説明することで、解き方や式の意味をしっかりと学び合うことができた。

このようなICTを効果的に活用した授業が、1年生から6年生のどの教室でも展開されていた。

大阪教育大学の木原俊行教授（パナソニック教育財団審査委員）は、公開授業を参観して次のように語る。

「論理的に考え、表現する力というのは高次な学力である。反復練習などとは違う。自分の仮説を立てて思考する

本連載、過去の記事は、日本教育新聞コミュニケーションサイト「先生解決ネット」(<http://www.kyoiku-press.com>)もしくは、パナソニック教育財団HP (<http://www.pef.or.jp>) から閲覧できる。

次回は1月19日付に掲載